【413】

氏　名（本籍）	並川　健二郎（京都府）
学位の種類	博　士（医　学）
学位記番号	博　乙　第　2557　号
学位授与年月日	平成23年8月31日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	**皮膚悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節微小転移の臨床的意義とインドシアニングリーン蛍光法を用いたセンチネルリンパ節生検**

主　査	筑波大学教授	博士（医学）	原　尚人
副　査	筑波大学准教授	博士（医学）	森下　由紀雄
副　査	筑波大学講師	博士（医学）	井口　研子
副　査	筑波大学講師	博士（医学）	富樫　真二

論文の内容の要旨

（目的）

皮膚悪性黒色腫において、第1章ではセンチネルリンパ節（sentinel lymph node ; 以下SN）以外のリンパ節転移（additional lymph node involvement）の予測に役立つような、また予後と相関するようなSN転移の細分類が可能かどうかを評価することを目的とし、第2章では近赤外線観察カメラとインドシアニングリーンによる蛍光法を用いたセンチネルリンパ節生検（sentinel lymph node biopsy; 以下SNB）の実行可能性と有用性を評価することを目的とした。

（対象と方法）

第1章では2005年12月までにSNBを実施した皮膚悪性黒色腫症例を対象として、調査票を用いて国内13施設に対してretrospectiveに調査を行った。SN転移の細分類として、maximum diameter（SN内の最大転移巣の長径）、invasion depth（SN内の被膜から最深転移巣までの距離）、microanatomic location（SN内の転移巣の分布様式）を選択した。第2章ではSNBの適応となる皮膚悪性黒色腫症例を対象として、従来の色素法やRadioisotope（以下RI）法に加え蛍光法を併用してSNBを行った。

（結果）

第1章では計450例のデータが得られた。additional lymph node involvementはmaximum diameterが0.1㎜未満の場合に唯一0%であった。予後について、SN転移陰性例に対してはいずれの細分類でも統計学的有意差をもって予後不良であり、N0とみなせるようなSN転移の下限の設定は困難であった。microanatomic locationのextensiveは特に予後不良であった。第2章では2007年4月から2010年4月まで49例にSNBを実施し、同定率は100%であった。

（考察）

第1章では多施設でのSN処理法に差異があり、病理評価法を含めた手順を統一したprospective studyが望まれる。第2章では、RIが流れにくい症例において蛍光法は有用な選択肢の一つと考えられた。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は悪性黒色腫の治療の指標となりうるセンチネルリンパ節に着目している。多施設より多くの症例を集めた病理組織学的および臨床的検討は、前向き研究を見据えて将来の治療指針の作成に大きく貢献すると考えられ、非常に高く評価できる。また、同定が困難なセンチネルリンパ節の対策として第3の方法を検討評価し、すぐに臨床応用できることも評価できる。

平成23年6月21日、博士（医学）学位論文審査専門委員会において審査委員全員出席のもとに学力の確認を行い、論文についての説明をもとめ、関連事項について質疑応答を行った結果、審査委員全員によって合格と判定された。

よって、著者は博士（医学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。